2　地しん・つ波から身を守るために

(1) 地しんから身を守る

ゆれを感じたら・・・

おちついて・・・



ゆれているときにすること

まず自分の身を守ろう。

・じょうぶなつくえやテーブルの下にもぐろう。

・あわてて、外にとび出さないようにしよう。

・外にいるときは、ブロックべい、まどガラス、じどうはんばいき、かんばんからはなれよう。

・学校では、つくえの下にかくれる。



ゆれが小さくなってからすること

・ドアをあけてにげみちをつくろう。

・ガスコンロやストーブの火を消そう。

・かぞくで決めていたひなんばしょに行こう。



・学校では、先生やほうそうのしじを聞いてひなんする。



学校や家のまわりであぶないばしょをかき入れよう。

学校内	
そと	
いえの中	

おうちの方へ

地震に備えて日頃から次の準備をしておきましょう。



・タンスや家具などを倒れないように固定する。
・コンロやストーブのまわりに燃えやすいものを置かない。
・家族で避難場所と連絡方法（災害時伝言ダイヤル１７１など）を決めておく。
・避難場所までの安全な避難経路を考え、避難の練習をする。

非常持ち出し品のリスト

・２～３日分の食料と飲用水（１人１日当たり３リットル）
・紙コップ、紙皿、ラップ、懐中電灯、衣料品、救急薬品、軍手、現金、携帯ラジオ、はき物、トイレットペーパー、ビニル袋など



(2) つ波から身を守る

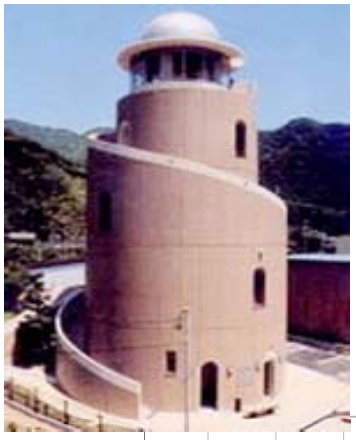
つ波は、ものすごく大きな力をもっています。ひざの高さぐらいのつ波でも、私たちはかんたんに流(なが)されてしまいます。

海のそばに住(す)んでいる人だけではなく、海水よくや魚つり、りょこうなどで海がんにいる人もちゅういしましょう。

・地しんをかんじたら、すぐに高いところににげましょう。

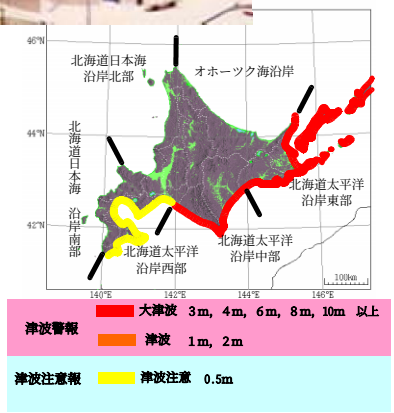
・高いところがないばしょでは、じょうぶなたてものの上のかいににげましょう。





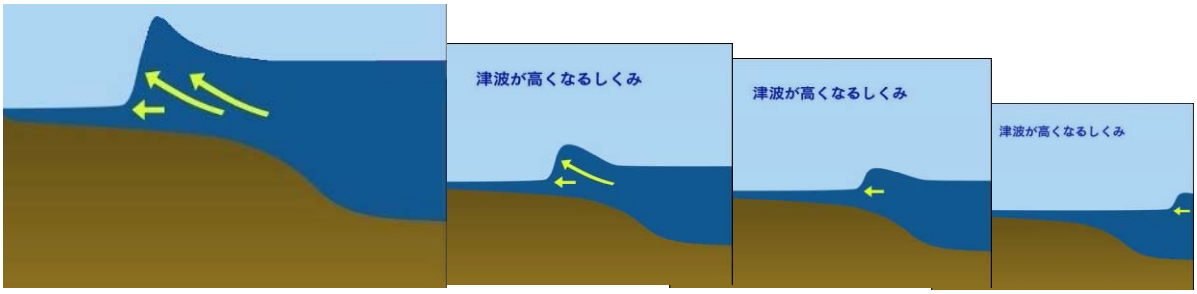
三重県紀勢町
津波避難塔
「錦タワー」

テレビ、ラジオ、防災(ぼうさい)むせん、こうほう車で「つ波けいほう」や「つ波ちゅういほう」が発表されいるあいだは、海がんからはなれていましょう。



(3) つ波のとくちょう

・海がんに近づくと、きゅうに大きな波になります。



・つ波は川をさかのぼります。

・つ波はなんどもくり返し
海がんにおしよせます。



・つ波は海水が引くことからはじまるばあいがあります。





こわかった地しんとおおつなみ（ほっかいどうなんせいおき地しん）

７月12日の夜10時17分、いきなり地しんがきました。私は地しんがこわくて、ふるえながら車にのっていたら、いきなり水がどうっときて、うかされて、車ごとはしらにぶつかってしまいました。そしてお父さんが一回目のつ波でげんかんから、おばあちゃんのへやまで流されました。あたまに「しぬなんていやだ」とうかんで声に出してしまいました。（稲穂小学校４年生の作文から）

つ波が発生したときににげるばしょは！

地しんのときに、あなたのかぞくのひなんばしょは！

おうちの方へ

気象庁では地震発生後およそ３分で津波予報を発表しますが、それよりも早く津波が来る恐れがあるのでただちに避難しなくてはいけません。

また、津波は第二波、第三波とくり返し襲ってくるので、気象庁の津波警報・津波注意報が解除されるまでは気を緩めないでください。